

第45号  
国立市東1-1-19-302  
山口康雄 574-5581  
印刷：クリアイメージ



### 第二十四回総会をむかえて

支部長 山口康雄

会員の皆様のご協力のお陰で今年度も総会を迎える事ができました。私の支部長としての任期は今年で二

期四年が経過いたしました。これも会員の皆様、役員の方々のお力添えの賜物です。有難うございます。しかし、去る五月十八日の役員会で再度支部長に推挙され、もう一期二年間を務めることになりました。

私個人の職業の関係で、思うように時間をさけない状態ですが、幹事長をはじめ、皆様のご協力を得ながら精一杯、努力するつもりでおりますので、ご支援賜りたく、よろしくお願いいたします。

この一年間は、三多摩地区連絡協議会の当番幹事支部として、協議会役員

会、第七回ゴルフ大会、そして協議会総会や囲碁会等を開催し、さる四月十一日次の当番であります日野支部へ無事引き継ぎを終了しました。母校中央大学が存する地域支部の連合体として当連絡協議会の役割、重要性を再確認した次第です。支部の活動につきましては、白門会ニュース第四十五号に記載のとおり、多岐にわたりましたが、特に、創立百二十五周年式典への参加では深い感銘を受けました。また、記念事業の募金活動につきましては会員各位に多大なご協力をいただき、あつく御礼申し上げます。秋の裏磐梯への一泊旅行では美しい景色に酔いました。最後になりましたが、今期は会費の納入状態が思わしくなく、また、若い会員の皆様の行事への参加も少ないようです。会の運営等に改善すべき点など、お気付きの点、お気軽にお申しつけ下さい。会員の皆様のご参加をお願いします。

### 平成二十二年度 第三十二回 定時総会開催

六月十三日(日)午後三時から「せきやビル」において開催されました。大学から玉造常任理事、中村一二五周年記念プロジェクト課長、近隣支部からは山崎立川支部幹事長、斉藤小金井支部長、川上小平支部長、森本府中支部幹事長、白沢港区支部副支部長のご臨席を得て議事も円滑に進行し、すべての議案が承認された。懇親会では、「せきやビル」オーナーの関係者である関潤子さんのフルート、小山いずみさんのピアノの名演奏で大いに盛り上がりました。最後に恒例の校歌と応援歌を力強く歌い上げ閉会となりました。(石井 記)



### 新年会 合唱で盛り上がる

平成二十三年新年会は一月二十三日(日)午後三時から、駅前せきやビル七階「エンラホール」において開催された。昨年同様、会員・家族をはじめ友人や知人の参加を得て四十名の出席者を数えた。会長挨拶や新人紹介などを盛り込み、新年らしく華やかに歓談の輪が広がった。

アトラクションとして招聘した地元のプロオーカリスト、三沢ひろみさん(小金井市在住で当会会員本多孝祐さんの実姉と判明)に、ジャズからジャンソン、日本唱歌までの幅広いジャンルをピアノの伴奏(宗のぶひこさん)で歌っていただいた。最後は出席者と一緒に「学生時代」や中大校歌の合唱で盛り上がり、終了予定時間を超過して五時半閉会となった。

(北井 記)



### さくらフェスティバル に参加

四月四日谷保第三公園で開催のさくらフェスティバルに「磯辺焼き」を販売した。早々と完売し、残り火でイカを焼いて乾杯した。(堀田 記)



### 秋・春のクリーン多摩川に参加

市内には、多摩川をはじめ矢川や城山などに昔ながらの自然が残り、散策などが楽しめます。そこで、美しい自然を守るため、青少年を中心に市内の団体が協力して多摩川の河川敷を清掃しています。十一月二十一日・二十日の両日参加しました。毎回、清掃後の手作りうどん、多摩川沿いの会員宅の庭でのお茶会など楽しんでおります。(石井 記)

### 海の日恒例の納涼会

七月十九日(海の日)昭和記念公園バーベキューガーデンで開催。会員・友人・十五名が集まり、炎天下手馴れたK氏が肉や野菜を焼く、ビール・日本酒・焼酎・・・を飲み干し、さらに二次会に消えていく人もいました。(石井 記)



### 秋の一泊旅行

#### 裏磐梯猫魔ホテル

恒例の一泊旅行は秋が深まる裏磐梯に決定。宿泊は有名な猫魔ホテル。しかも、ホテル専用の大型バスで東京から送り迎え。参加者一同、紅葉の美しい桧原湖一周を中心とした秋の旅行を心行くまで楽しみました。尚、当旅行の企画、ホテルとの交渉などは重野さまのご尽力によります。ありがとうございました。(堀田 記)



猫魔ホテル

### 学術講演会を開催

平成二十二年十一月二十一日(日)午後三時から「せきやビル」において中央大学一二五周年記念「中央大学学術講演会」を開催いたしました。

講師 宮丸裕一 法学部准教授  
演題 「笑い」と世代間格差

オヤジギャグに若者はどう対抗するか?

会員・友人・一般の方 四十五名の方々に参加いただきました。

熱心な聴講者から質問も出て、有意義な講演会となりました。

また、講演会終了後には宮丸先生を囲み懇親会を開催し、多くの会員が楽しくも有意義なひとときを過ごしました。(石井記)



### 二多摩地区連絡協議会

#### 第一回開基大会開催される

平成二十二年年度の当番支部であります国立支部の企画により、一月三十日(日)立川本因坊において、十名による熱戦と懇親会、二次会と盛会に行われました。(石井記)



### 京王百草園梅まつり

二月二十六日、都内でも有数の梅の名所として若山牧水や徳富蘆花をはじめ多くの文化人に親しまれてきた百草園を訪れました。

八〇〇本の梅が紅白の美しい花を咲かせていました。持ち帰った弁当に園内で買い求めた酒がおいしい。

おみやげに「春昌梅」まんじゅうが人気でした。

「梅の甘露煮を丸ごと入れ小豆あんで包んだもので、ほどよい酸味と甘みのバランスが散策の疲れを癒してくれそうです。」

十四名参加 (石井記)



### 中桜俳句会

#### 市橋千翔先生の卒寿のお祝い

市橋先生のご指導による国立白門会会員の俳句会「中桜俳句会」の有志による先生の卒寿をお祝いする宴が昨年四月七日もたれました。益々お元気でご指導いただき度、よろしくお願いいたします。(平本記)

(平本記)



# 『年刊合同句集初桜』 刊行に際して

市橋千翔(千鶴子)

平成二十一年七月一日発足したばかりの国立支部俳句同好会「中桜俳句会」が、翌二十二年十一月三日に、題名を季語「初桜」に因んだ見事な合同句集を上梓するに至りました。会員八名と少数ながら、各人の自選の力作二十句を収めた、七十六頁におよぶ美しい和綴じのアンソロジーです。

平成二十二年七月七日の句会のあと、年長の藤村霽閑(後夫)氏から、一年目のはじめをつける意味で合同句集を編みたいとの、嬉しいご提案をいただきました。

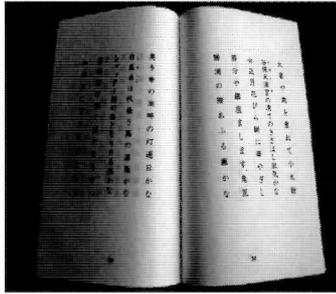
毎日の作句にも、僅か一年と思えない長足の上達振りを見せて下さる会員の方々の熱意とご努力に、私自身も選句や選評に力が入り、この一年間充実した日々を過(こ)してまいりましたが、正直言って一年目の合同句集上梓のご提案には驚きました。

ところが、その場で編集に関する役割分担も決まり、刊行に関する大凡の目安も立ち、編集委員会がその日には立ち上がるチームワークのよさに、私は感じ入るばかりでした。

これも、日頃の石井孝山(孝)、平本聖花(聖子)両氏の肌理(きめ)のこまやかな幹事としてのご配慮のもと、会員各員の能力や特徴を生かし、印字化の一切を北井治徳氏が、製本

は、白石紀之(紀二)氏のお骨折りで謄本の専門家に依頼し、酷暑のなかを全員が総力をあげて編集に骨を折られた結果であり、まさに選者として冥利につきる嬉しい成果でした。

やがて、第二号の編集が待っています。私は「中桜俳句会」が、亡き堂野達也学員会会長の理想とされる、実学の中央大学に文化的香りを、の夢を着実に実らせて下さるものと信じ、俳句の指導を生き甲斐のひとつとして、今後も努めさせていただきます所存です。



## 玉川兄弟の苦勞を偲ぶ 玉川上水散策 三十二キロ

多摩川をもっとよく知ろうという趣旨で、過去2回に渡る「多摩川源流を訪ねる旅」と、「たまりバー50キロ」を河口までウォーキングで踏破に続き、二〇一〇年九月から十一月まで三回に分けて「玉川上水散策」と銘打ち、羽村取水口から杉並区浅間橋までの三二キロを完歩した。

玉川上水は江戸市中への飲料水供給のため幕府の命を受け、承応二(1653)年、玉川庄右衛門・清衛門兄弟が開削工事を請け負った上水路。多摩川の羽村堰から四谷大木戸(現在の新宿御苑)まで全四三キロに及び、標高差僅か一〇〇メートルをすべて露天掘りという、当時の技術では難工事だったと伝えられている。上水の完成は単に江戸への飲料水供給に留まらず、不毛の武蔵野台地に分水することにより、新田開発へ多大な貢献を果たし、現在の多摩地区の繁栄の基礎ともなった。上水の両岸は武蔵野の雑木林が生い茂り、四季折々の美しい散策路を構成している。

第一回は九月二八日(火)

玉川上水駅から小金井公園までの約一〇キロを予定したが、生憎の雨の中、参加者8名が傘を差しての出発となった。途中、小平市小川町の天然温泉「テルメ小川」で足湯に浸かる。「東京都薬用植物園」に立ち寄る頃から雨足が強くなり、東大駅近くのレストラで早目の昼食。雨の上がつた午後は「喜平橋」でタイムアップとなったため、国分寺駅南口の喫茶店で反省会。歩行距離8キロ。

第二回、十月十九日(火)

国分寺―喜平橋からコースに戻り、山本有三記念館、井の頭公園を経由して、杉並区上高井戸の「浅間橋」まで約十二キロ。ここから玉川上水は暗渠となるため、参加者9名の徒歩散策はここまで。

第三回は十一月九日(火)、

玉川上水上流に戻っての最終回。羽村駅から多摩川の羽村取水堰まで出て、玉川上水駅まで。

参加者十一名は時まさに紅葉の真っ盛りの中、玉川兄弟の苦勞を偲びつつ十二キロを歩いた。

途中、多摩の銘酒「嘉泉」の蔵元田村酒造で小休止(酒蔵

見学や試飲ができず、残念の後、開削工事中の試験通水で、水が吸い込まれてしまい流路を変更したという名残の「水喰土(みずくらいど)公園」で昼食。午後は、「昭和の森ゴルフコース」を横目で見ながら、今は砂川で「国立」と名乗る懐かしき「国立音楽大学」キャンパスを遠目に眺めながら、午後三時前玉川上水駅に到着。全員事故もなく無事完歩した。

駅前の喫茶店で反省会の後、散会。反省の足りない8名は立川駅南口の居酒屋で第二次反省会を行ったのは言うまでもない。

北井記



2010.11.09

# 八ヶ岳幻影

重野和夫

八ヶ岳山麓で農業を始めて十六年目になる。我ながら飽きずに今日まで頑張ってきたと思う。そもそも何の因果で国立の家から、一二〇キロ以上離れている山地に住処を求め、畠で作物を作ることになったのか。

私は、公立学校を平成八年三月に定年退職した。その前年から暇を見つけては、中央高速をひたすら走り、八ヶ岳周辺で気に入った場所を物色していた。八ヶ岳は、東西三〇〇キロ南北一〇〇キロの山岳で、その周囲には開けた裾野が広がり、風光明媚、高原の春夏秋冬を彩る木々や花、動物、吹き渡る空気の鮮烈さは、他の何処よりも素晴らしいことを知っていた。

実は、昭和三十四年教員になって、元気な生徒を引率して初めて夏の林間学校に行った。施設が野辺山高原にあった。三泊四日を生徒と共に八ヶ岳登山、ハイキングなどで過ごし、二十三歳の若さを教育を通して燃焼していた。その学校に赴任していた八年間、季節がくると決まったように実地踏査だ、引率だ、と八ヶ岳とのつきあいが続いた。やがて、八ヶ岳の自然に魅せられて、その虜になってしまったのは、当然のなり行きだと思っている。



それ以後、春のワラビ狩り、獅子岩から花の飯盛、夏の県境尾根から主峰赤岳、縦走、そして秋や厳冬の期の北八ヶ岳の森林と湖沼などなど。八ヶ岳に甘え楽しみを存分に享受してきた。

山荘の前に一反(三〇〇坪)ほどの畠がある。北に八ヶ岳、東に茅ヶ岳、西に南アルプス、南に富士山を望むことが出来る。畠仕事をしているとき、季節の風の中にウグイス、ホトトギス、カツコウ、キジ、フクロウなどが気まぐれに呼びかけてくる。また、蝉や虫の声に季節の移ろいを敏感に感じ取ることも出来る。そして、繰り返される季節の中で「人間は生かされているんだ」という実感が湧いてくる。山麓は、この十六年の間で人が代わり、環境も大きく変

わってしまった。

八ヶ岳で過ごした教え子達は、すでに還暦を過ぎていてる筈である。八ヶ岳の山容・稜線は、昔の姿のまま私に語りかけてくる。目を閉じると、過ぎし日が新鮮に蘇り心を動かす。八ヶ岳は青春の山であり続けている。

## 晩春の秩父霊場巡り

丸本 大

秩父の山々は、杉の濃い緑と浅葱色(あさぎいろ)の木と薄紅色の山桜が見事に重なり合っており、しかも調和している風景が目につけてすばらしい。

東日本大震災犠牲者の慰霊も兼ねて、晩春の三日間、一番四萬部寺(しまぶじ)から二十五番久昌寺(きゅうしょうじ)迄徒歩で巡拝してきた。秩父は、武甲山の麓にお寺が集中しており、車での参拝者が多く、徒歩の巡拝者は少ない。今回で六度目の巡拝になるが、今回は初心者と二人での霊場巡りであった。同行者の足を気づかい行程を工夫した。初日に武甲温泉に泊り、二日目は、羊山公園の芝桜を見学、鶯の声を聞きながら江戸巡礼古道の山林を歩き、市街地を一望できる山頂のお寺に参巡する等秩父の景観を満喫



することが出来た。幸い晴天に恵まれ、お寺や巡拝途中に出会った一期一会の方々との出来事は、現実世間苦を忘却する程の霊場参拝となった。同行者も再挑戦の意志を表し、三十四番水潜寺の満願を期待する。



アロマと癒し 大寺 順子

私がアロマと出会ったのは十年くらい前になります。いわゆる更年期で不眠がずっと医者から睡眠導入剤をもらっていた時に、親友が急死しました。親友は長年安定剤と睡眠剤を常用していたのが、心臓が弱くなっていったのとでした。私は薬の依存性や副作用を心配し、アロマ屋で「パチュ

リ」と「マジヨラム」を買ってきました。アロマは気分が落ち着くうえに、よく眠れました。それからアロマの資格や、アロマを使用するリンパマッサージの資格も取りました。今では、膝の痛みや肩こりも自分でなおしています。

嗅覚は唯一大脳に直接作用し、大脳辺縁系をダイレクトに刺激します。また嗅覚は胎児の時に最初に発達する。生命を維持するのに最も原始的に重要とされています。アロマを嗅ぐと大脳辺縁系にわずかに数秒で作用し、落ち着いたり、幸福感に満たされたり、癒されるのです。

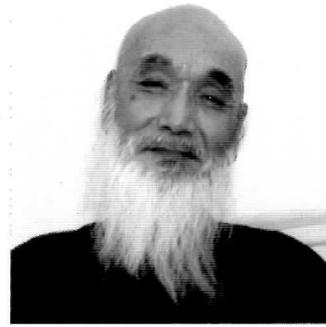
具体的には気持を落ち着かせるのに勧めは、ラベンダー・グレープフルーツ・プチグレン・マジヨラム。やる気を出すには、ペパーミント・ゼラニウム。

持病がつかない方は、サイプレス・ローズマリー・ティートリーなどが良いと思います。お手軽に使うのには、ガーゼなどに数滴含ませて、気分によって吸えばよいのです。

アロマは漢方のような効能がありますが、あまり気にせず好きな香りを選んでください。その人が好きな香りが、その人の現在の体調にあっています。それが嗅覚の本能です。

# 『命の大切さ』 私の闘病の記

二宮亮巍



今年二月八度目のお遍路から帰って来てしばらくすると、耳の調子がおかしくなり多摩総合医療センターで診てもらおうと「突発性難聴」と診断され、即入院と云う事になりました。よくよく診察の結果、内耳水包症であると診断されました。

元々右の耳は電話の音が聞き取れなかったのですが、それに加えて左耳までが難聴になるなんて、これも加齢のせいでしょうか、受け入れざるを得ません。

それはそれとして、私は平成五・六年頃から少しずつ血糖値が高くなってきておりました。

血糖値の値は「セブン・イレブン」と云われるように七〇〜一一〇までは正常値です。それを超えると高血

糖云われるのです。

私の場合二三〇〜一五〇、一六〇、前後です。それは両親とも立派な糖尿病患者でありましたから、多分に遺伝的要素があるのでしょうか。

血糖値が高いと合併症として「し・め・じ」の症状が現れます。「し」は「神経障害」、「め」は目で網膜症、悪くすると失明します。「じ」は腎臓で最後は「人工透析」を受けなければならなくなります。透析を受けるようになると数年で死亡する確率が高いようです。血糖値として二〜三ヵ月前の血糖の値を示す「ヘモグロビンA1C」と云う数値があります。ドクターはこの「ヘモグロビンエーワンシー」を重要視します。その数値が五・八以下であれば正常、それ以上であれば立派な糖尿病患者であると云われるものです。

国立市内の内科医院にかかって血糖値を下げる薬は処方してもらってはいました。医者からは何も云われないので、薬を飲んでいけば良いものだと思います。それでヘモグロビンA1C

の値は6から7, 8, 9, と高くなり、平成十六年にはついに一〇・三まで上昇しました。つい最近の値は、それでも八・二です。

本当に糖尿病が怖いと思っただのは、昨年の暮れに大学の学友でS君が他界したのです。彼は学生時代から優秀でS化粧品会社の社長秘書を十年余り務めて、独立して商事会社を経営していたのですが、彼もやはり糖尿病で平成三年に失明をし、最近では腎臓を患い人工透析を続け、壊疽にも架かり足を切断すると云うことにも耐えていましたが、とうとう去年十二月に帰らぬ人になってしまいました。

たまたま、この三月に耳で入院した時に、病院の掲示板で糖尿病講座が開かれていることを知り、出席したのがキツカケでした。

ヘモグロビンA1Cの数値に三〇をプラスして下さい、数値が八・二でしたら三八・二の熱病患者なのです。糖尿病と云うのは、普段は痛くも痒くもない、気が付かないだけで立派な熱病患者なのですよ、と云われて大変驚き、

ショックでした。改めて本格的に糖尿病を治療しなければいけないと思いました。それで、四月になって二週間の入院生活をする事にしました。

毎日血糖値を自分で測定し、必要に応じてインスリン注射を打つと云う繰り返しです。

また、数回の糖尿病講座を受けること云うものでした。「糖尿病の成因」「糖尿病の合併症」「糖尿病の食生活」等々の講習を受け、実際の食生活の指導を受けると云うものでした。

ここで一つの重大な問題に気付かされました。首のエコー診断をした時の事です。昭和五十八年々に脳卒中をおこした時の検査で左内頸動脈の枝分かれた一方が詰まっている事は判っていましたが、太い一本の動脈そのものが詰まりかかっている事が判明した事です。明らかに詰まってしまうと、また脳卒中を起こすことが確実である、と云う事です。

何時その時が訪れるのか、三年先か、五年或いは十年先か分かりませんが、その時まで一日一日を大切に生きて行

くしかない、と云う事に気がつかされました。

## 諸行事のスナップ写真



バーベキュー 2010.7.19



新年会 2011.1.23

惜別の歌と特攻隊

田口正明

昭和二十八年三月 旧制法学部卒

惜別の歌の作曲者である藤江英輔さんの、中央大学創立二二五周年記念講演会に私も出席し、拝聴する機会にめぐまれた。久しぶりにお元気な先生のご尊顔を接し、たいへん有意義なお話を最後までお聞きすることができた。

私は旧制法学部の最後の卒業生。予科には文学愛好者の集い「蘭文会」があった。毎年秋、駿河台の中央大学会館でひらかれた。席上、惜別の歌に関わるエピソードなどを拝聴した。

戦後、歌声喫茶などで惜別の歌がよく歌われるようになった。私は当時、淀橋区西大久保一丁目、いいかえれば現在の歌舞伎町二丁目に住んでいた。新宿コマ劇場の北側で、焼け残った三越と伊勢丹それに富士山がよく見えた。歌声喫茶の前を通ると、惜別の歌などが聞こえてきた。

藤江さんは、戦時中、板橋にある陸軍造幣廠で、学徒動員で働いていた。いわゆるペンを捨てて、ハンマーを握っていた。日増しに切迫してくる戦局のなか、動員学生のなかから、招集令状により、戦場に動員される学生がふえてきた。

藤江さんは、島崎藤村の若菜集にある高樓（たかどの）の詩を見て、作曲を思い立った。

いつぼう、中央大学の学生だった穴沢利夫先輩は、そのころ、沖繩特攻作戦に参加。米艦に特攻攻撃の果てに、壮烈な戦死をとげた。陸軍第二〇振武隊の少尉であった。

わが命につらなる いのちありと念へば いよいよまさりて 悲しき極む（死んでいく私とひとつになる命があると思うと悲しくてたまらない）  
婚約者の智恵子さんは、生涯独身を通したそうだ。

惜別の歌

島崎藤村 作詞  
藤江英輔 作曲

一 遠き別れに耐えかねて  
この高樓に登るかな  
悲しむなかれ我が友よ  
旅の衣を整えよ

二 別れと云えば昔より  
この人の世の常なるを  
流るる水を眺むれば  
夢はずかしき涙かな

三 君がさやげき目の色も  
君紅の唇も  
君が緑の黒髪も  
又何時か見んこの別れ

駆けつづけた1¼世紀  
Chuo-DNAはさらに進化する



中央大学  
CHUO UNIVERSITY

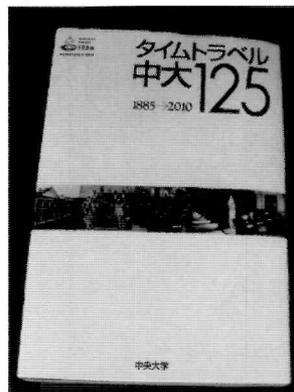
創立125周年



1885 - 2010

募金状況 (2011 5.2 現在)

募金目標	100億円	現募金額	60億8500万円
八王子支部	5,890,000		
立川支部	4,085,000		
国立支部	8,762,000		
日野支部	12,414,000		
町田支部	2,145,000		
三鷹支部	4,080,000		
調布支部	4,021,000		
小金井支部	4,310,000		
小平支部	4,487,000		
多摩支部	3,240,000		
府中支部	3,061,000		



記念誌

記念式典開催される

平成二十二年十一月十三日

多摩キャンパス クレセントホール

ご来賓・大学OBをはじめ、関係者多数出席の中、理事長、学長の力強いご挨拶、ご来賓のご祝辞に続き、大学の歴史を振り返るドラマが上演され、我々が知らない先人の苦闘、遠い昔の大学の様子に思いを馳せた。

## 平成22年度 国立白門会決算書

自平成22年4月1日 至平成23年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	決算	予算	科目	決算	予算
前年度繰越金	377,586	377,586	印刷費	66,990	100,000
年会費	174,000	240,000	総会費	269,151	200,000
総会費	153,000	150,000	事業活動費	119,841	150,000
寄付、祝金	57,000		親睦行事費	177,111	100,000
行事活動特別収入	232,670	80,000	通信費	51,955	100,000
125周年寄付助成	68,550		会議費	17,350	30,000
支部活動強化費	50,000		事務用品費	11,114	30,000
雑収入 (預金利息)	70		雑費	5,300	10,000
			予備費		127,586
			次年度繰越金	394,064	
合計	1,112,876	847,586	合計	1,112,876	847,586

平成23年5月31日

会計 真見 敬 印  
 会計監事 二宮 巍 印

## 平成23年度 国立白門会予算案

自平成23年4月1日 至平成24年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	摘要	金額	科目	摘要	金額
年会費	3000円×80	240,000	印刷費	白門会ニュース	100,000
総会費	5000円×30	150,000	総会費		200,000
特別収入	さくら祭、市民祭	50,000	事業活動費	近隣支部総会祝金	150,000
前年度繰越金		394,064	親睦行事費	納涼会・新年会他	200,000
			通信費	会員連絡他	50,000
			会議費	役員会他	30,000
			事務用品費		30,000
			雑費		10,000
			予備費		64,064
合計		834,064	合計		834,064

平成22年度活動報告 22・4・1～23・3・31	平成23年度活動計画案 23・4・1～24・3・31
* 4/ 4 (日) 「さくらフェスティバル」に参加	* 4/ 3 (日) 「さくらフェスティバル」開催中止
* 6/13 (日) 第33回定時総会(せきやホール)	* 6/12 (日) 第34回定時総会(せきやホール)
* 7/19 (月) (海の日)納涼会(立川昭和記念公園)	* 7/18 (月) (海の日)納涼会(昭和記念公園)
* 9/15 (水) ボーリング大会(立川スターレーン)	* 9/14 (水) ボーリング大会(立川スターレーン)
* 10/11 (月) (体育の日)くにたちウオーキング	* 10/10 (月) (体育の日)くにたちウオーキング
* 10/25 (月) 三多摩連協会ゴルフコンペ(当番)	* 11/ 6 (日) 「くにたち市民まつり」に参加
* 11/ 7 (日) 「くにたち市民まつり」に参加	* 11/ 秋の一泊旅行
* 11/10 (水) 秋の一泊旅行 裏磐梯猫魔ホテル	* 11/20 (日) 秋のクリーン多摩川
* 11/13 (土) 創立125周年記念式典 9名出席	* 1/ 22 (水) 新年会
* 11/21 (日) 学術講演会「笑いと世代間格差」	* 2/ 観梅(水戸偕楽園)
* 11/21 (日) 秋のクリーン多摩川	* 3/18 (日) 春のクリーン多摩川
* 1/23 (日) 新年会(せきやホール)	
* 1/24 (月) 三多摩連協会 総会	
* 1/30 (日) 三多摩連協会 囲碁会	
* 2/26 (土) 観梅(百草園) 14名参加	
* 3/20 (日) 春のクリーン多摩川	
○ 白門会ニュース44号発行	○ 白門会ニュース45号発行
○ 俳句同好会「中桜俳句会」毎月一回開催 平成22年10月合同句集「初桜」を刊行した。	○ 毎年開催しております「中央大学学術講演会」は 震災の関連で大学から中止の連絡がありました。